

ミニ懇談会報告書

申込者：健康サロン

テーマ：「地域の人々が生き生き生活する為には」

日 時：令和元年11月8日（金） 午前11時～午前11時55分

場 所：七次台東集会所

出席者：健康サロン：26人

市側：市長 秘書課 秘書課長ほか2名

挨拶：市長

ミニ懇談会趣旨説明：秘書課長

【趣旨説明】：秘書課長

本日、ミニ懇談会をお申し込みいただきまして本当にありがとうございます。開催に当たりまして、ミニ懇談会の趣旨について簡単に触れさせていただきたいと思います。

ミニ懇談会は、このように市民のグループの方々と市長が懇談をさせていただきまして、今後の市政運営に役立てていきたいということの趣旨でございます。あくまでも懇談会ということになりますので、この場ですぐに課題の解決とかということにはならないのですけれども、その辺はご了承いただきたいと思います。したがって、今回、担当課は呼んでおりませんので、我々秘書課のほうで一緒に皆さんと懇談をさせていただければと思いますので、よろしく願いいたします。

それから、時間のほうが、事前に12時までということでお伺いしておりますので、進行について皆様にご協力をいただければと思いますので、よろしく願いいたします。

【職員紹介】：秘書課長

続きまして、本日出席しております職員等のご紹介をさせていただきます。

（各出席者自己紹介）

本日は、よろしく願いいたします。

続きまして、市長からご挨拶をさせていただきます。

【市長あいさつ】：市長

皆さん、こんにちは。私は37年間、市の職員として、主にまちづくり、地域づくりを担当してまいりました。それを市長としてさらに実現をしたいという思いがありまして、今回の4月の市長選挙に立候補させていただきました。

私は、このまちの良さ、課題、そういうものを自分なりに37年間で熟知しているつもりでございます。しかし、皆さんが実際に住んでいて、生の声を聞かなければ、自分だけではなかなか地域づくり、まちづくりができませんので、今日はその意味から、この地域が抱えている問題、どういうことを行政に実現してほしいかということをごつづばらんに話をさせていただきたいと思います。

せっかく黒板がありますので、ちょっとお話させてもらおうと、今、男性の平均年齢が幾つかご存じですか。男性が81歳、女性は87歳。健康年齢と言われるのですが、健康年齢は自分のことが自分でできる自立した年齢ですけれども、男性が72歳で平均年齢と9歳も差があるのです。この9歳というのは、健康寿命はないのだけれども、介護保険とかそういうのを受けながら長生きしている。女性の場合は、87歳が平均寿命で、健康寿命が75歳で差が12歳です。ですから、女性は長生きしますけれども、健康寿命は平均寿命に比べて少し短いということでございます。これから人生100年時代を迎えます。今の平均寿命の男性81歳、女性87歳が、50年、60年しますと、大体100年を迎えてくる。こういう中で、いかに自分らしく楽しく生きるか、これが今後大きな鍵になると思います。

ただ、健康であればいいのかということ、健康のためにいろいろなものを犠牲にしているのかということ、そういうことではないと思います。人生を楽しく生きるためには、仲間が必要ですよ、趣味が必要ですよ、生きがいが必要ですよ。こういうものを持ちながら自分の人生を謳歌する。そういうことが私は大事だと思っています。それを地域や行政がどうサポートしていくか、どう支援していくか。これからのまちづくりというのは、これが大きなテーマになってくると考えています。それを今までは、全て行政が担ってきました。これからは、行政だけの力では恐らくなかなか難しいと思います。

例えば今回の災害を見てください。災害は、今まで考えられなかったことが起きています。そういう中で市職員だけで災害の対応、復興復旧は難しくなっています。今回も千葉県内で台風の影響で、館山とか茂原とかには県外、県内職員が入って行って、いろいろなお手伝いをしています。

ですから、今後は災害に強いまちづくりを住む人たちと行政と民間企業と協働して、お互い助け合いながらやっていかなければ、これからの地域づくり、まちづくりは難しくなってくると考えています。

そのために大事なことは、お互いの顔が見える、挨拶ができる、こういう関係を築いていきたいと思っています。今後も、これを気に持ちながら私は地域づくり、まちづくりを進めてまいりますので、どうかいろいろな面でご助言とご指導をお願いいたします。

市長

役員さんのほうで、この地域の大きな課題というものを事前に宿題をいただきました。それについて、回答をさせていただいてから、それ以外の問題、自分のことでもいいです。周りのことでもいいです。そういうことをフリートークでさせていただきたいと思います。

まず、質問の1、風間街道に大雨がたまった後の始末ができていません。こういうご質問をいただいております。これに対する回答でございます。大雨の際は、職員による道路パトロールを実施し、排水溝の落ち葉やごみを取り除く等、早急に改善できるように努めています。なお、一定の時間が経過しても冠水が解消しない場合がありますら、担当課の道路課にご連絡をいただきたいという回答をさせていただきます。

二つ目、七次台の道路の草が伸びているが、切ってくれないか。恐らく周りに草が生えていて、歩くのにもいろいろな面で不便だと、こういう質問だと思いますが、これにつきましては、歩行者や自転車及び自動車の通行に支障となる市道の草刈りについては、道路課で年間委託により、順次草刈りを行っているところでございます。多分、皆さんの満足の行くような形ではないかもしれませんが、業者には委託しております。そしていろいろな要望、苦情があった場合については、そこは業者に話をし、草刈りを行っています。ただ、皆さん満足、納得できるような頻りに何度も何度も草刈りというのは、今はできない状況であります。

また、民地内から道路にはみ出している枝などは、原則として地権者に刈るように依頼しているところです。これはあくまでも民地である場合については、所有権というのは地主にありますので、この方が適切な管理をしなければなりませんので、市としては土地所有者の方に連絡をしています。

なお、通行の支障となっている場合がありますら、道路課まで連絡をください。民地でも何でもいいですから、もし自分が歩いたり自転車に乗ったりしたときに危ないと思ったら、担当課に連絡をしていただきたいと思います。

三つ目、七次台社協の拠点をつくってほしい。ここは拠点がないんですよ。清水口にはありますけれども、こういうご要望をいただいております。これについての回答です。七次台小学校地区社協の拠点整備については、施設の確保が困難なことから課題として捉えていますが、現時点において具体的な整備の予定は未定です。本来ですと、学校がどんどん子供たちが減ると、学校の敷地内や学校の教室を使って整備ができるのですが、この地区はベリーフィールド等もありますので、子供の数はすごく増えていて減っていない、この地域の独自の特性があります。ですから、今、具体的にどこに

整備するかという計画はないということです。

健康サロン

済みません、途中でもいいですか。

市長

いいですよ。どうぞ。

健康サロン

本当に困っているのです。お邪魔虫みたいな感じで、月1回会議もやっているのですけれども、もしも頼むのだったら、市の社協に頼むのでしょうか。

市長

どっちにしても、市のほうで当然計画に位置付けをしなくてはならないのです。市の社会福祉協議会の計画に。そういうことも含めて、自分のほうからは、社協の方にも話をさせていただきます。社協としても、お金もないし場所もないですから、当然市と連携をしなければいけない部分ですよ。

健康サロン

そうなんです。自治会のほうに一声かけてもらえるだけでも違うのです。

市長

自治会のほうに一声というのは何ですか。

健康サロン

自治会から断られて第一集会所を借りられなかったのです。あそこを借りられれば、本当に便利なのですから。

市長

考えられる手としましたら、自治会と地区社協で協定か何かを結んで、そういうルールを決めればいいですよ。その辺も助言をしてみます。ですから、当然自治会は自治会に合った目的で、自分たちの活動は優先します。しかし、今言ったように、協定でお互いに自治会も地区社協も地域住民の福祉の向上を目指しているのですよ。自治会もそうです。防犯にしても防災にしても、最終的には住んでいる人たちの福祉の向上を目指していますので。その辺でちょっとお話をさせていただきたいと思います。

健康サロン

できれば、よろしくお願いします。

市長

それが今できる手ということですね。わかりました。

次に行きます。4番目です。空き家が多くなっているが、市では何か対策があるのかというご質問です。この地区も空き家は多いですか。

健康サロン

多いです。なかなか売りに出しても売れないのではないですかね。

市長

そうですね。これを自分なりに調べてみました。空き家率というのがありまして、全国の市と区は、東京の23区も含めて812あります。その中で白井の空き家率はどのくらいの位置にあるかを調べてみたら、白井の空き家率は7.1%。この数字というのは、812地区のうち805番目です。ですから、空き家率は低いのです。他の市ではもっと空き家率が高いという状況です。

これは大きな特色として、一つ言えるのは持ち家が多いということですよね。当然宅地がありますと、どうしても空き家になる傾向がありますから、持ち家率が高いのと、高齢者の方でひとり暮らしの方や相続人がいないというのがまだ少ない。ただし、このニュータウンで白井は発展してきましたので、今後5年、10年経ちますと一気に後期高齢者が増えていきます。そして、さらに独居の方が増えてきますので、この空き家対策というのは、これからのまちづくりとして大きな課題です。

多摩ニュータウンを皆さん知っていますか。千葉ニュータウンよりも7年か8年前にオープンしていて、多摩ニュータウンで今起きている問題というのは、この高齢者の居住問題です。駅前の店舗、団地内の店舗がどんどん閑散化している。私は、千葉ニュータウンも多摩ニュータウンと同じような現象がこれから起きてくるという危惧をしています。そのために十分、多摩ニュータウンの実態、どうしているかということをやっていくのかということをよく注意しながら、この千葉ニュータウンエリアにも置き換えて、新しいニュータウンの再生をしていかなければいけないと考えています。

そういう中で、今、白井がやっている現状だけお話させていただきます。市では、空き家の発生抑制に重点を置いた次の事業を中心に行っています。

若い世代の移住定住促進のため、親元同居近居支援事業を行っています。これは自分の子供が身近に住むようになれば、一部の補助金を出していて、なるべく親子で住める環境を支援しています。

住みかえ支援事業としまして、若い世代の借り手と空き家の所有者とのマッチングを紹介しています。若い人たちが白井に住んでみたい、空き家の人たちが誰かに貸してほしいという人たちのマッチングの紹介を行い、少しでも空き家を減らすことをやっています。また、所有者支援として、以下の施策の取り組みを行っています。

所有者の適正管理を促すための啓発パンフレットの作成及び配布をしています。空き家になっていくと困るのは、安全面ですよ。防災面とかそういう面では、適正に管理するようなパンフレットを配って、啓蒙活動を今行っているところです。

また、草がたくさん生えていたりして苦情があった場合には、関係課と連携をして、所有者に対して適正管理依頼の文書とパンフレットを配って、適切に管理するようにやっています。場合によっては、業者の一覧表も入れて紹介をしているところがございます。これが4番目になります。

5番目、西白井複合センターの運営はどこでやっているかというご質問ですが、今現在は、指定管理者とあって、市が直営ではなくて民間の方に委託しております。今、西白井複合センターは、ワーカーズコープというNPOなのですけれども、そこに5年間の委託をしています。

これはなぜこういうことをやるかといいますと、民間の方がサービスとコスト面で違うのです。そういうことで行政がする仕事、民間がやる仕事、市民にお願いする仕事、それを分けながら、全体の行政の人員費なり仕事の量の削減を進めているのですけれども、そういう意味から、ここは民間委託をしています。現在の指定期間である平成31年度から令和5年度までの5年間は、ワーカーズコープさんが管理運営を担っております。ただし、いろいろなクレームとか苦情というのは、行政の方で監督責任がありますから、お受けはいたします。

次に、ごみの手数料が上がったのはなぜかというご質問。皆さんの生活に密着するご質問だと思うのですが、確かに印西市は粗大ごみが無料です。粗大ごみは平成19年4月から有料化を導入しましたが、導入から10年が経過し、この間、消費税の引き上げやごみの処理原価の上昇により、実際にかかっている処理費と排出者から徴収している粗大ごみ処理手数料の差が大きくなってきました。そ

の不足分について、粗大ごみを排出しない市民も含めた納税者全体で負担している状況と今はなっています。このため、さらなるごみの減量化と資源化の推進、受益者負担の公平性の観点から、市の財政状況や近隣市町の状況等も踏まえて、令和2年1月1日から粗大ごみ使用料・手数料の見直しを行うこととしています。

全国で粗大ごみのお金を取っているところが幾つぐらいあるか調べてみました。全国の市区町村で1,741の自治体があって、このうち粗大ごみを有料化しているところは1,109自治体です。率にしますと63.3%の自治体は、粗大ごみに手数料を設けています。今回、上げた理由というのは、消費税の関係と、原価が変わってきているということです。

ただし、皆さん困るのは、高齢者の方でなかなか粗大ごみを出せないという問題が起きますよね。これについては、市としても課題としてこれから取り組んでいく問題と思っております。

今回、ごみの有料化の見直し、皆さん料金を知っていますか。重量が10キロ未満の場合は現行が350円、これが520円になります。これが収集の場合です。直接搬入の場合については、今15キロ未満が150円から220円に変わります。これは本当に皆さんに負担をかけて申し訳ないのですが、一部お金をもらわないと、なかなかやっていけないというのも原因です。

市全体のこれからの見直しをお話しさせていただきますと、今まで白井市というのは、人口がどんどん増えてきました。これから来年、令和2年になりますけれども、人口が減る現象になるだろうと予想しています。これは千葉ニュータウンで発展したまちが初めてこういう現象に陥ります。ただし、2009年度から日本の人口は減っています。1億2,700万人がどんどん減ってきて、今1億2,000万台になってくると。さらに今後、人口が減ると、最終的には8,000万人ぐらいになるのではないかとこの国の人口推移であります。

そういう中で、この千葉県というのは、まだまだ今でも人口は増えてきました。白井も増えてきました。しかし、この白井も今の推計では、来年あたりから人口が減ってきて、一方で高齢者がどんどん増えていく。こういうことが起きると何があるかという、やはり高齢の方にはどうしても収入がない部分があります。その部分で収入が減ってきて、高齢になってきますと、いろいろな部分で社会保障関連が増えてくる。これは一般論ですけれども、こういうことが起きますので、これからの市というのは、右肩上がりのまちづくりから、むしろ右肩下がりという今の現状をどのように維持をしていくのか、今の制度、仕組みをどうやって少しでも削減しないで維持するのか。こういう時代に入っています。

そういう中で、なぜ市長をやるんだとよく言われるのですけれども、そういうことも踏まえながら、なるべく今のサービスを維持、さらに良くするためには、こういう皆さんとのいろいろなお話を通して、どこにお金を投入して、どこを削減して、どこを見直しすればいいかということ十分に話を聞きながら、改革をやっつけていかなければいけないと思っています。机の上だけで、全て改革改善はできないと思います。ですから、なるべく生の声を聞きながら、どこにお金を投資して、どこが無駄で、どこが必要ないということをやりながら、議論をしながら、この白井を存続できるように進めていきたいと思っております。

皆さんの一番の関心事、この七次台三丁目は循環バスが通らなくなったので、駅まで行けないというお話がありますよね。ご質問を受けています。次回の市バスの改正はいつか。また、そのとき地域住民も代表に加わってほしいというご要望です。

回答を用意させていただきました。ナッシー号のルート及び時刻の変更時期は、明確には定めていませんが、現在協議中であり、令和2年度中を目途に検討を進めていきます。

また、検討は、白井市地域公共交通活性化協議会があるのですけれども、これは民間のバス会社、鉄道会社、市民団体、地域住民、行政も含めた協議会ですが、ここで今検討を進めております。なお、この七次台地区からも1人委員として加わっています。今、次の公共交通の役割であったり、ナッシー号のルートなどについての議論に、この地区からも1名入っています。さらに、いろいろな団体からも代表者が加わっているところでございます。その他にも住民代表としましては、自治会の連

合会、高齢者クラブ、二小のPTA、社会福祉協議会という市民団体も入って今議論しているところです。

今、実際、ナッシー号は4台しかないのです。4台の中で、この白井市というのは35.48平方キロメートルありますので、これをいかに効率よく回していくか。皆さんの要望を全て叶えれば一番いいのですけれども、4台でどうやって回していくか、今ちょうどそういうことも含めて考えています。

大事なことは、全てナッシー号でカバー出来るわけではないのです。当然民間のいろいろな路線バスがあります。それとお互いに結合しながら、お互いに連結しながら、これで利便性を確保していきたいと思っています。ですから、活性協の中には、民間路線バスも入って、タクシー会社も入ります。場合によっては、小回りのきくタクシーでも皆さんは利用しますので、そういうものを含めて、お互いのそれぞれの役割とお互いが連結できるように進めているところです。

皆さん、一つわかってほしいのは、全くバス路線が入っていない地区もあるのです、実は。

健康サロン

どこですか。

市長

二小地区。平塚といった第二小学校の方は、バスが入っていなかったのです。もともとは、向こうに教育号などで、子供たちを迎えに行ったりしていたのですが、今は教育号もなくて。

健康サロン

なくなったの。

市長

なくなったのです、おっしゃるとおりで。それを循環バスでカバーしています。皆さんの要望もわかるのですが、一番大事なことは、採算がとれなくて民間のバスが行かず交通手段がないところにまずは優先的にバスを回していく。そういう中で、いかに皆さんの要望に応えていくか、今それは検討を進めているところです。

皆さんの思いはわかります。それは昨年度も、自分が総務部長のときに地区説明会をやったときに、いろいろご指摘などもいただきましたので、それは当然職員も状況をわかっていますので、そういうことも含めて今考えているところです。

今回、少しよくなった点というのは、ちばにうバスが白井駅に止まるようになりましたから、できればそのバスと連結しながら、いろいろな時間を短縮できるような方法がいいのかなということも含めて考えさせていただきたいと思います。

健康サロン

ちばにうバスは、何でイオンの方の停留所なんですかね。私、知らないで、新鎌ヶ谷でずっとバスを待っていたら来ないので、そうしたら通りかかった人が、イオンの前ですよなんて言われて。

市長

多分、自分が思うには、もうこちらの新鎌ヶ谷の駅もバス停が目いっぱいですよ。民間バスもあそこに来るし、鎌ヶ谷のさつき号もあそこに来ていますので、恐らく場所がなくて、わかりづらいですが向こうの交番の裏側の方に行っただと思います。ただ、逆に言うと、あっちの方がゆったり待てますよね。

健康サロン

ただ駅が遠いから、あそこまで歩くのが。

市長

あそこまで行くのも大変ですか。

健康サロン

歩けないから。足が弱っちゃって。

市長

そこは、やっぱりそこを管理している側との話だと思うのです。恐らく渋々あの場所になったと思います。どちらかという、学校のバスなど運送のバスが多いですね。宿題にされたものは以上です。今の現状をお話させていただきました。ここですぐにこうしますとは、いろいろな地区のいろいろな話がありますので言えないこともあります。ただ率直に皆さんのお考えになっていること、困っていることを出していただいて、これから後期基本計画という計画をつくります。これは市で一番大事な計画ですので、そういうものがもし行政としても、地域全体の話でしたら考えていかなければなりませんし、いろいろなことも含めて、決して言ったことは無駄ではないですから。そこは何か思っていることを言ってください。ただ、すぐに見直しと言われても、即答はできませんがよろしくお願いします。

健康サロン

ありがとうございました。

秘書課長

それでは、何かご意見等ございましたら、どうぞ。挙手でお名前を言っていただけるとありがたいです。

健康サロン

先ほどのバスの続きなのですが、4台のナッシー号をどうやり繰りしても、誰かが満足できない状況になるというのは現実だと思うのです。

それで、バスということからちょっと離れて、タクシー券を配布する。タクシー券の配布の対象を増やすとか、民間のバスを利用してデマンドバスを用意するとか、そういう他の手段で何か考えることというのは、後期の計画で考えてもらうということではできないですか。

市長

一つは、今おっしゃったように、タクシー券をもう少し、これからは高齢者の免許返納がありますよね。そういうこともご意見だと思います。それも含めて考えていかないといけないし、あとはデマンドバスという話がありましたよね。そういうことも含めて考えていかないといけないし、さらに言うのであれば、今バス会社もバスの運転士がなかなか手がいらないらしいのです、高齢化になってきて。今言われているのは、無人バスが結構試験的にやっていますよね。5年ぐらい先になれば、このエリアにも無人バスで、簡単な道でしたら恐らく行けると思うのです。そういうことも含めて、先も含めていろいろな組み合わせを考えていかなければいけません。

健康サロン

わかりました。ありがとうございます。

健康サロン

済みません、そういうのを決定するのは市議会ですか。どこですか。

市長

政策提案をつくって、予算提案するのは市長の権限です。最終決定というのは、議会です。予算を承認する、政策を承認する、これは議会です。

健康サロン

議会ですね。

市長

でも、提案するのはあくまでも執行部のほうで、議会も提案権はあります。でも、中心は市の方で、皆さんでいろいろ話し合った結果をこういう施策が重要です、こういう予算が重要ですというのを上げて、そして最終的には、21人の議会で審議をしていただいて、多数決で決定をします。

健康サロン

座ったままで申しわけないです。市長さんとお目にかかったのは、ほとんど初めてかもしれません。申し訳ございません。

今、市長さんからいろいろな話を伺った内容が、私の質問にみんな合致しているのです。だから、なるほどなということ概ね分かったのですけれども。

まず、白井市の11月1日の広報では、人口がマイナス28人なのです。その28人は高齢化でお亡くなりになったのもあるだろうと思いますが、市として28人マイナスになったというのは、大体どんなところが多いのだろうと。

市長

おっしゃるとおりで自然減、亡くなって減ったのか、移動したのか。恐らく月によって増えたり減ったりしますので、転勤だったり移動だったりもあると思います。細かいところまでは、見ていないのですけれども、自然減というよりも転勤、移動だった人があると思います。

健康サロン

亡くなった人もありますね。

市長

あります。今は自然減のほうが多いですから。亡くなる人が多くて、子供を産む人が少ないではないですか。今、1人が大体産むのは1.4人ぐらいですから。当然何もしなければ、人口はどんどん減っていくのです。亡くなる人が多くなっていくので。

健康サロン

ちょっとお話ですと、来年度から人口が減っていくだろうということで、今まではベリーフィールドなど建売が二、三年前から結構建ちまして、結局人口が増えていって七次台小学校も爆発的に小学校の世代が多くなったのです。今後そういう面で、白井地区は災害が非常に少ないところなのです。むしろ三丁目あたりは台地ですから災害に強いということで、立地条件としては非常によろしいと思っているのですけれども、例えば市街化調整区域を直して建売をつくるとか、結局宅地の割合が少ないと思うのです。印西と比べて、その辺のハンデがあるのです。これからの活性化は人口増加なのですけれども、冒頭にも市長さんが、来年からは落ちますよと。当然、日本の国も2人に対して

1.4人ということですから、当然人口は減っていくことになるのですけれども、何としても人口を増やすということは活性化することなのです。その辺で活路がないかなと思っているのです。そういう意味で、これからどうやって人口を増やしていくのか。何か市長さんのビジョンをいただきたいと思っています。

市長

自分が考えていることですよね。おっしゃるように、今このテーマというのは、どこの市町村でも言えます。人口をいかに維持するかが、まず大事です。維持というのは、住んでいる人たちを他のところに行かせないことが大事です。そのためには、皆さんに満足な行政サービスを提供しなければいけないと思っています。まずは維持すること、その上でどうやって他の市町村から市民を奪ってくるか。全体の人口が減っているわけですから、奪い合になるのです。

そうすると、何をするかというと、サービス合戦ですよ。このまちはこういういいサービスがありますよ、このまちはこういうサービスをやっていますよと。極端な話、高齢者は全部医療費も無料、バスも全部無料ですよと、そういうことをやっていくしかないと思うのです。これから本当に、そういうサービス合戦をやるまちで本当にいいのかどうか。まちというのは、子供さんがいて、若い人もいて、高齢者もいて、障害のある方もいて、みんながいろいろバランスよくいられるのが私はいいまちだと思っています。人口を奪ってくるよりも、今いる人たちにいかに満足いく行政サービスを提供できるか、維持できるかが鍵だと思っています。

そういう中で、この場所の魅力がまだあるのです。今皆さんがおっしゃったように、災害に強いです。台風15号、19号、21号を見てください。梨が一部被害を受けましたが白井市は被害がほとんどありません。房総、八街、富里を見てください。ああいう被害はありませんでした。それは台風の目とか雨などにもよりますけれども、ないというのが実態です。水害もありませんでした。液状化も当然ありません。こういう災害に強い、さらには、平成23年の東日本大震災の時にも大きな被害を受けていません。422軒の一部家屋の損害しか受けていません。人的被害は、ありません。ですから、これからの日本国民が一番怖がっている自然災害、こういう強いまちを目指していけば、行政サービスだけを売りにするのではなくて、いい立地条件、地盤が固い、人もこうして繋がっている、こういうものを売りにしていければ、このまちに人がまだ集まってくると思います。私は、どちらかというところ、そういう方向で売っていきたいと思います。地震にも強いです、災害もありませんよ、地域住民も仲よくやっていますよと、いろいろなことを踏まえながら訴えていければ、まだまだこのまちに人が集まってくると思います。

健康サロン

先ほどバスの問題が出ましたけれども、高齢者は多くなるのです。人間が生きていくには、衣食住ですけれども、食が一番大事なのです。毎日買い物に行かなくてはならない。そうすると、何もなければバスで行くしかない。この辺は非常に問題点だろうと、市長さんもおっしゃいましたけれども、年をとると、やっぱりバスを利用せざるを得ないのです。免許も八十何歳から認知症だから免許取り消しとか、そういうことになれば、足はバスしかない。これは重大なことだと思っていますので、できるだけその辺も考慮していただきたい。

最後に、私は平成4年にニュータウンに入ったのですが、結婚してから7回転居しましたけれども、白井市役所の対応は非常によろしい。何十年前に市役所に来たときに、いい市役所だなと思いました。現在もいいです。私は、いろいろなところの市役所の対応を見てきたのですが、これは非常に褒めてやりたいと思います。これからも続けて対応をよろしくお願ひしたいと思います。

最後に、遠いというのだけれども、東京にも割合近いです。浅草まで30分ぐらいで行きますから。運賃の問題なのです。一区間300円ですから。ですから、この辺の運賃の問題が、京成はスカイライナーで儲けていますけれども、この辺で何とか少くともそこそこの運賃にするというようなこ

とも努力していかなければならないだろうと。そうすれば、活性化して住民も住むのではないかなと私は思っています。

市長

今の話で二つだけ答えます。

まず鉄道問題は、今行っていることを継続してやるしかありません。仕組みは、定住人口が少ないというのが一番のネックです。また、その割には、高い投資をしたというのがあります。これは白井だけの問題ではありません。周りの沿線市も含めて一緒にやっていかなければいけない問題だと思います。これは引き続き、私も市民の一番の大きな課題と捉えていますので、これは実施していきます。

二つ目の買い物難民の話です。これから確かに、買い物に行くのもいいけれども、売りに来てもらうという方法もありますよね。例えば市内には農業生産者がいっぱいいます。こういう方が集会所に来てもらって、いろいろなものを販売するとか、そういう市内循環というのもやっていきたいと思っています。というのは、農家の方が、まだまだ東京に行ったり、市川に行ったりして、車だと危ないではないですか。だったら、自分で作った朝採れたものを近場で売れるような環境、地産地消というものもやっていきたいと思っています。

健康サロン

粗大ごみのことなのですけれども、値上がりするのは仕方がないですけれども、自転車やたんすなど大きいものは、お金を払うのは仕方がないですけれども、今、燃えないごみの袋に入れて、袋に入れられるものだけは燃えないごみで持っていってもらえるのですけれども。

もう後期高齢者になってきているので、終活をしようと思って片づけ始めているのですけれども、あの小さい燃えないごみの袋では、とてもじゃないけれども出し切れないので、せめて45リットルの生ごみの袋がありますよね。あのぐらいの袋に入れられるものは、燃えないごみで持っていただけないかなと思うのが一つ。

今バスのお話をおっしゃっていましたがけれども、二つ目は、後期高齢者になって免許を返納しますよね。バスに乗ろうと思って行くと、ベンチがないのです。だから、背もたれのベンチがあれば。大体バスは時間に来ないから、先に行かれてしまったら1時間待たなくてはいけないので、5分前ぐらいには行くのです。そうすると、もう行ったかな、行かないかなと思って心配してイライラしていると、今度、時刻になっても来ないから、先に行ったのかなと思って、ずっと立っていると、5分ぐらい過ぎたら来るのです。そうすると、合計10分ぐらい立ってはいけません。私なんかは膝が痛くて、10分はとても立ってられないので、中学校の土手に座ったり、こっこの野口台のところで私、車で通って見たりすると、やっぱり木の株のところに座ったりして、みんな高齢者の人はじっとは立ってられないので、待っているのに最低10分ぐらいは待つのです。知人が免許を返したのだけれども、バスで行くのに、バス停に椅子がないからとてもつらいというのを聞いているので、私もそれは、ナッシー号だけではとてもできないかもしれないけれども、ほかの民間のバスの人と協力して、背もたれのベンチを少しずつでも置いていただければと思って。その二つです。

市長

今のお話は、即答はできませんけれども、今おっしゃったように民間のバスと共同して停留所のものを使うということがありますよね。そこはさっき言った25人が集まっている、いろいろな関係団体があり民間バスもいますので、そういうところかけ合ってみます。ナッシー号でやらなくて、今既存のあるところを活用するのも一つの手ですよ。あとは時間帯とバス停などを分ければいいのですから。そこはそんなにお金をかけなくても、今あるものを使いますので、そこは提案していきます。ありがとうございます。

健康サロン

粗大ごみの方もよろしくお願いします。

健康サロン

ちょっと袋が小さ過ぎるものね。

健康サロン

入らない鍋もあるので。だから、ああいうときは、どうしたらお鍋も。

市長

わかりました。聞いておきます。

健康サロン

力がないものですから。押しても押せないの。

健康サロン

もうちょっと大きいと助かりますよね。

健康サロン

せめて生ごみの袋ぐらい。

健康サロン

その中間ぐらいで。そうすると、鍋も入れられるような。あれはどうしたらいいのか迷って、そのままにしちゃったり。

健康サロン

一つ出すのに500円出すと、結構お金かかるなと思って。

健康サロン

昔の缶が、押しても潰しても全部ぺちゃんこにはならないので、そこまで入り切れないのです。そうしたら、どうしたらいいのかなと思って、そのまま錆びたまま置いてあるのですけれども。

市長

皆さんの言っていることはわかるのですが、これからのまちづくりを考える中で、例えばこういう建物を持っていますよね。これを今までは1,000人でお金を払って維持しますが、これからは1,000人ではなくて800人で物を維持することになるのです。では、その物を壊していいかという、そういう議論ではないと思います。1,000人で今まで負担したものが800人になるということは、維持するために200人分のお金をどうやって捻出するかですよね。そういうお金の使い方をしていかななくては行けない。ですから、皆さんに痛みの伴う部分はあると思いますけれども、そこはいろいろな意見を聞きながら、どういう部分だったら納得ができて、満足ができることは聞かなくては行けないですね。ただ、今言ったように、何もしなければ、今のサービスというのは、維持することは難しいと思います。

健康サロン

バスの中で質問したいのですが、新鎌ヶ谷から大きな駅に行くときに、聖仁会病院とか

セコメディック病院とか白井病院の車が割と空いているのですけれども、病院等にお金払って提携するという事は出来ないのか。時々もったいないなと思うときがあるのです。

市長

いいアイデアですね。おっしゃるとおりで、そう言う人もいます。ただ、あれは自家用バスなので、人を乗せてお金をもらうバスではないのです。そういう許可の問題があります。ただ、そういう中でどうやってできるか。例えば病院に行きますからと乗ってもいいわけですよね。その運用の仕方というのは、これから考えなければいけないと思っています。

健康サロン

建前は病院に行くということで。空いている車が多く走っている。こちらは本数が少ないし、行くところが例えば新鎌ヶ谷だったら、活用する方法はないかなというのは感じています。

市長

いろいろな組み合わせをやっていければカバーできる部分もありますから。今認可の問題と今日の問題がありますので。そこはでも、そういう問題はありますけれども、今そのアイデアはいいと思います。議員の中でもそういう質問をする人がたくさんいます。

健康サロン

ぜひ柔らかい発想をお願いします。

市長

官民連携ですね。

健康サロン

ごみのことなのですからけれども、有価プラスチックのごみ袋なのですからけれども、あれは大きいものしかなくて、一応軽く洗ってということなので洗って置いておくのですけれども、やっぱり1週間に大きな一袋は使わないのです。人数も少なくなっていますし。ですから、あれの燃えるごみと同じように小中大そろえてくださいとは言わないのですけれども、せめて中ぐらいがあるといいかなと思うのです。夏場だと、幾ら洗ってもにおいが出てくるので、毎週捨てたいですし、冬場では、お部屋だとしても台所でも暖房が入りますので、においが出てきては嫌なものなので、中の袋があればいいなと思っているのです。

市長

わかりました。担当のほうに話をしてみます。ありがとうございます。中袋でも料金はとってもいいということですね。

健康サロン

中の袋があれば。

健康サロン

欲しいのです。今、大きい袋しかないのです。

健康サロン

においが出てくるので。

市長

わかりました。そこは担当課に話をしてみます。中袋も販売したらどうかという話ですよ。

健康サロン

そうです。

健康サロン

先ほど市長さんがおっしゃって下さいました買い物の件なのですが、私たち社協と健康サロンの方でも話を進めております。それで、実現するまで、まだなのですけれども、やおばあくが来てくれるかなという感じをボランティアセンターなんか話してくれているのです。だから、社協で進めた方がいいのか、それとも市の方で何か進めてくださるのだったら、そちらの方の話を知りたいと思っているのです。

市長

やおばあくは民間ですから、当然、需要と供給があれば行くと思うのです。自分の方からも話しますけれども。ただ、いろいろな地区でそういう要望があると思うのです。そこは、全体で社協の方で取りまとめしながら、回る順番、優先順位を決めると思うのです。今回のミニ懇談会の内容については、担当課なり社協に伝えます。大丈夫ですよ。

健康サロン

ありがとうございます。

市長

では、自分の方から最後に。本当に今日は、ありがとうございました。まだまだいろいろな皆さんのご意見、課題なり、市に対してのご不満、ご要望があると思うのですが、また今後もこういう機会があればお会いしまして、自分の考えていること、思っていることを率直に話をさせていただきます。それに対して、違うのではないか、こうではないかということもあると思いますけれども、そこはきちんと話をさせていただきますので、よろしくお願いします。

何度も言いますが、これからの資源というのは、やはりお住まいになっている人たち、それと地域資源、あとは、この地盤と都心から近い、災害にも強い、これを売りにしながら、このまちは周りとは協調しながら、いいまちをつくっていきたいと思います。今後ともよろしくお願いします。

— 以 上 —